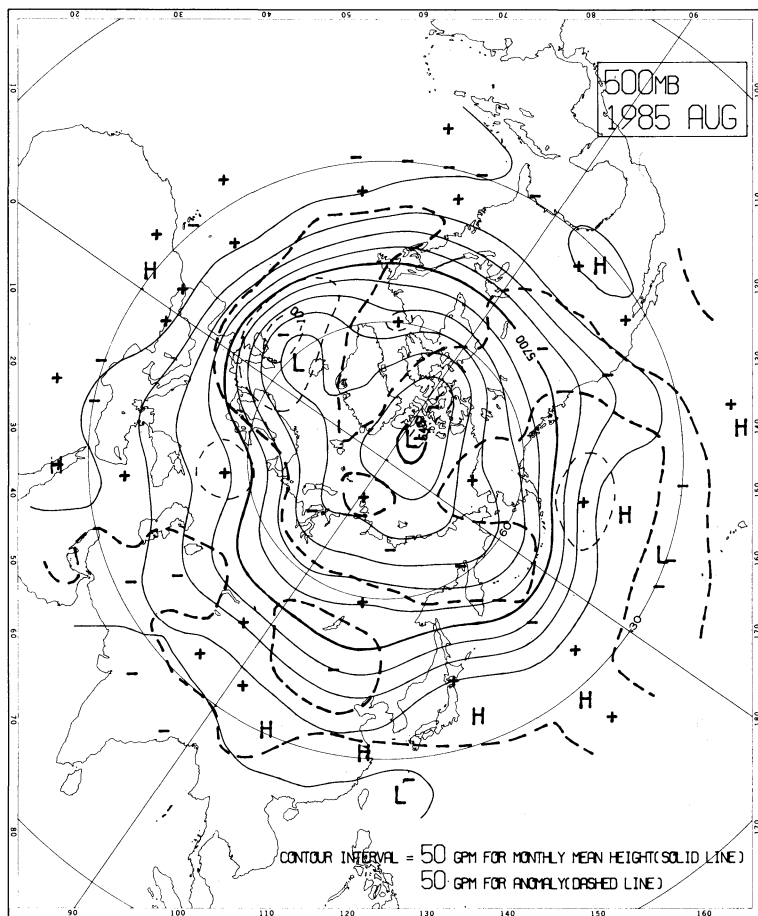


月平均500mb 天気図. 1985年 8月

(破線は平年からの偏差. 単位m)



中緯度太平洋域で波数6が卓越

今年の8月の500mb高度にみられた特徴のひとつは西ヨーロッパの顕著なトラフである。高度の平年からの偏差は大きいところで標準偏差の2倍以上に達した。その東側と西側にはリッジが発達し、高緯度で蛇行の大きなパターンが形成された。このため西谷傾向が続いた西ヨーロッパは多雨であった。

太平洋側の中緯度に目を移すと、モンゴルからアメリカ西海岸に至る東西波数6程度のトラフとリッジの列に気がつく。このうちアメリカ西海岸のトラフは平年でもみられるものである。日本付近のリッジが日本の夏の天候を左右する要因のひとつである亜熱帯高気圧で、平年より北に寄った位置にほぼ定常的に居座つ

た。このため北日本と日本海側を中心にほぼ全国的な高温・少雨となり、月平均気温については観測開始以来第1位を記録した地点が続出した。日本付近の亜熱帯高気圧の動向については西部熱帯太平洋域における対流活動との関連が指摘されているが、まだわからないことが多い。やはり記録的な猛暑となった昨年の8月にも、位相がややずれているがこのようなトラフとリッジの列が現れたことをつけ加えておく。

上・中旬にはほぼ月平均天気図にみられる位置に中心があった極うずは、下旬にはいると2つに分裂し、それぞれカナダ北部とタイミル半島付近に南下し始めた。それに伴う寒気の流入はカナダ側が著しい。

(気象庁長期予報課 露木 義)